

白岡ニュータウン自治会だより

1月新春号

平成15年1月吉日

白岡ニュータウン自治会発行
会長 岡田光旦

挨拶と花と緑の
明るいニュータウン

☆☆新年のごあいさつ☆☆

自治会長 岡田光旦

自治会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

ご家族お揃いで、良い新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は自治会活動に、深いご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。

本年も自治会員の皆様が、健康で幸せな年でありますようお願いいたします。

お陰さまで自治会活動は順調に推移し、諸行事につきましても皆様のご参加と、役員班長さんの積極的なお取り組みにより、盛り上がりと共に地域に定着してまいりました。

自治会活動の目的は、会員相互の協力によって、生活環境の改善と維持増進、会員の福祉の向上を図ることです。そのために美しい街並み景観を保ち、潤いのある街、安全で安心して住める街を目指して参りますので、本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

【重点推進事項】(諸行事を除く)

- ◎高齢化のすすむニュータウンに対応し高齢者や障害者に優しいバリアフリー化の推進。
- ◎皆様の第二の故郷づくりと、子供達の故郷づくり。
- ◎美しい景観を保つため、緑化規約の中でも緑化と二段植栽を最重点に取り組みますので皆様のご協力をお願い致します。
- ◎生垣の改修(改築、車庫増設等に伴うものを含む)をされる方は、事前に事務局経由、自治会緑化委員会に緑化規約適合の有無について、ご相談ください。
- ◎新白岡駅にエスカレーターの設置、小学校の校庭の芝生化につきましては、濱田町長、遠藤県会議員にお願いし県議会選挙の公約に取り上げて頂きました。欧米先進国のように芝生の校庭で子供達が精一杯運動が出来、環境を汚さない日も近いことと思います。
- ◎窃盗進入事件等に伴う防犯については、久喜警察署に駅前派出所の常時駐在やパトロールの強化をお願いしますが、万全ではありません。2CH放送や自治会だより等で情報を提供致しますので、二重ロックや照明灯の点灯等各自でも自衛策を講じて下さい。
- ◎スローガンに掲げた、『挨拶と花と緑の明るいニュータウン』にありますように各家庭で花を植え、自分で楽しむと共に道行く人々にも楽しんで頂き、潤いのある街にしましょう。

【連絡事項】

武銀前角地と三丁目の地主換地の看板については景観条例違反看板でありますので 白岡町役場に撤去をお願いして参りましたが、地主が武銀前は三年、三丁目は二年契約をしていて期限切れ迄撤去出来ない、また撤去の前例が無い、それ以降は看板を掲載しない約束をとっているのでもうしても了解して欲しいとの連絡がありました。

以上よろしくお願ひ致します。



『新年を迎えて』

新白岡悠友会 会長 赤津 允 勇

あけましておめでとうございます。

昨年はいろいろと皆様にご協力戴きながら、各種の事業を活発に楽しく行いました。この紙面をおかりして内容にふれますと、行事としては新春の新年会に始まり、日帰り旅行（春秋の2回）、映画鑑賞会、日本舞踊鑑賞会、夏の盆踊り（白岡町・自治会の2回）、文化展示会（2回）、お話し会など、又福祉活動では町立小中学校への手縫い雑巾作製寄贈、東小学校生徒への草取り指導、白岡高校との合同町内美化清掃、自治会集会所の清掃、福祉ふれあい広場のバザー参加、赤い羽根共同募金等々が主な内容でした。

上記が全体的な行事ですが、各個人の趣味によるクラブ活動がありました。それを紹介しますと、油絵クラブ・園芸趣味のクラブ・カラオケクラブ・将棋クラブ・詩吟クラブ・民謡クラブ・ウォーキングクラブ・健康体操クラブ・ゴルフクラブなどです。昨年は新たにグランドゴルフクラブ・社交ダンスクラブ・囲碁クラブの3クラブが加わり活動中です。一人で複数のクラブに参加される方も多く、皆さん元気に活躍されています。又昨年は、このニュータウンで今後高齢者の層が増加することから、悠友会と自治会で共通する問題や事業について、共に考え、行動するための「話し合う場」を作ることとなり、具体的な作業は今年より始めることとなると思います。

このように昨年は多忙な一年でしたが、今年はこれらを基にさらに充実させながら、新しいものを取り入れて更に発展して行きたいと考えています。

悠友会の目的は会員の親睦、地域社会の発展と老人福祉の増進に寄与することです。このことを楽しみながら消化してゆく一年にしたいと思います。

尚、悠友会の会員は現在93名です。多くの方の入会を望んでおります。白岡ニュータウン自治会内の60才以上の居住者が一応の資格者です、宜しくお願い致します。

※悠友会についての問い合わせは赤津（電話：92-4793）までお願いします。

<私の視点>

「新興住宅地から“ふるさと”創世をめざして」

熊谷 藤 雄

新年明けましておめでとうございます。

今年が皆様にとってまたニュータウンにとっても良い年である事をお祈り致します。

さて、2003年を迎えた、最初の自治会だよりに「新しい視点での提案を」ということで、岡本理事よりご依頼され、特に考えることもなくお受けした次第であるが、もともと文才のない私に何が書けるのかと思案、考えた末、我が「ふるさと」感を踏まえて白岡ニュータウンの「ふるさと創世をめざして」の提言とさせて頂くこととした。

私のふるすとは、信州の片田舎、妻に言わせると20年以上経ってもあまり変化が無いと言われる程の田舎、そこで暮らす人達も世代が変わった位で大きな変化は無し、今でも帰れば子供の頃の付き合いがそのまま残っている、私にとってはまさしく「ふるさと」である。

何が、「ふるさと」を感じさせるのか、人それぞれに感じ方の違いがあるのかもしれないが、やはり、人の暖かさ、想い出残る風景（自然、街並み）である。

政治の世界で、十数年前「故郷創世」と銘打って、地方自治体に金をばらまき、地方の環境を変える施策を打ったことがある、これは、田舎に人を呼び戻すこと、都会への人口流出を抑制するための魅力ある街づくりということであったと思うが、ある程度成果を上げた地方もあったが、今となっては逆に「ふるさと」の魅力を無くしてしまい、人口流出を止められなくなった地方もあると聞く。また、最近のニュースで、東北のある村が都会の人達に田舎の暮らしを体験して頂く企画を実行し、参加した家族が、その魅力を感じ、都会から移り住んで来ているとのこと耳にしている、これらから考えるに、「ふるさと」の魅力は物欲で無く、心が欲するものを満たすことであると思うが皆さんはどうか。

「ふるすとは、遠きにありて想うもの……」という有名な句があるが、私はやはり帰りたい所、帰って心が安らぐ所、これが「ふるさと」であってほしいと思う。そんな「ふるさと」とは、「人の暖かさ、心のふれあい」ではないであろうか、生活をして行く上では、利便性も重要である、しかし、利便性だけならば、東京は最も便利な生活空間である、しかし、白岡ニュータウンに居を構えた人達は、多少、利便性は犠牲にしても、生活するための安らぎの地を求めてやって来たのではないかと思っている、緑があり花もある、勿論、これも安らぎの地として必要である、しかし、最も重要なのは、「人と人との心のふれあい」ではないだろうか、しかも、世代を超えて個々の生活、価値観を尊重し、暖かく包んでくれる街、白岡ニュータウンがそんな街であってほしい、そして、ここが、「私のふるさと」と言える街として行きたいものである。

※自治会役員として裏方でいろいろとご苦勞されている幹事・会計理事に一筆お願いしました。

☆☆☆監事理事として自治会活動に参加して☆☆☆

自治会監事 富村 満

新白岡に越して来て6年目、それまでの生活の中では考えてもいなかった自治会の活動に、思わず深く関わることとなり、正直な話、とんでもないことになったものだと感じていました。当初、夫婦間の話で、理事としての活動は私が行い、班長としての活動は家内が主として行なうということで始めましたが、私自身の自治会活動への参加は、土日には休みが取りづらいうい仕事の関係上次第に少なくなり、特に秋以降は、家内が中心となり活動を続けざるを得ない機会が非常に多くなっている現状です。それでも、この地域に住む者の義務（権利？）として、任期だけは果たそうと時間のやりくりをしてきた一年で、何とか無事に役割を終えられそうです。

本題の「監事理事として」に戻りますが、監事理事と言われましてもまだ本来の役割を行う時期が来ていませんので、各班のフォロー役としての監事の立場、総務班の立場で、自治会の各活動に参加し感じたことを記させていただくこととなります。

盆踊り大会。当日も仕事が外せず昼間の準備には家内が出席し、仕事を早めに切り上げて夕方より交代して夜店の手伝いに参加。そんな時にこんなことがありました。見知らぬ男性の方に「ご苦勞様です。」と声をかけられたのです。以前理事をされていた方なのか？どちらかの班長の方なのか？全く面識の無い方からの一言です。・・・救われる一言でした。

少なからず負担を強いられる自治会の活動、出来れば避けたい役割ではありますが、この新白岡での暮らし、“安全”や“快適”といったものを何らかの形で享受している以上、避けてばかりは居られないこと・・・地域の中で暮らすということを考えさせられる一年でした。

理事を未経験の方々には、ぜひ一度自治会の活動の中心に参加されることをお勧めします。その時には「ご苦勞様です。」の感謝の気持ちを持って、皆様と相対させていただけることと思っています。

☆☆☆自治会活動について☆☆☆

会計理事 平野 正隆

新年明けましておめでとうございます。

ニュータウンの環境を守り、「花と緑の明るいニュータウン」実現のため、少しでもお手伝いさせて頂けるなら・・・。そんな思いで役員をお引き受けして、はや3年となります。

文化部の正、副理事そして今期は、会計理事をさせて戴いております。各種行事に対する役員会での活発な討議、様々な意見や要望。役員会の度、会長はじめ役員の方々の苦勞と、大変さをしみじみ感じる今日この頃です。そうした活動の中で感じることは、当事者と第三者の立場の違いから来る様々な意見の対立です。

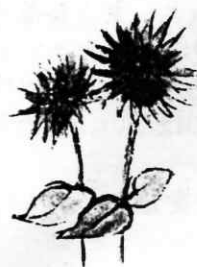
例えば、櫛並木の問題一つとってみても、様々な問題があります。周りから見ればきれいな櫛並木も、近くの人にすれば、日当たり、落ち葉、害虫等、たくさん問題があります。近くの人気持ちも理解できるのですが、やはり美しい街並みは残したい。そうした中で自治会は、また自分として何が出来るのか？

家の建替えや、増改築にあたって、近隣との友好を保ちながら「個人の希望」と「美しい街並みを維持する」事が求められます。こうした問題にどう対処すべきか。悩みは尽きません。

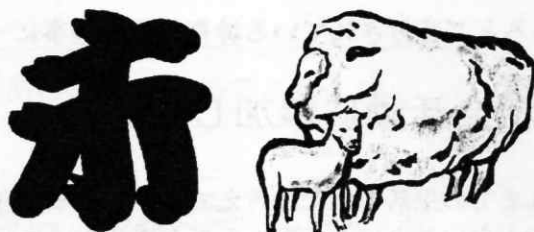
ともかく、個人の意見を堂々と述べながら、相手の立場を理解し、意見を尊重することの大切さを実感しております。

世相を反映してか、物騒な事件・事故も発生しております。同じニュータウンの住民としての連携が今こそ、求められているのではないのでしょうか。

おひとりおひとりのご意見を、自治会の活動に反映させるためにも、是非とも自治会の活動に、ご理解とご協力をお願い致します。



《悠友会コーナー》
【当り年を迎えて】



悠友会 岡村 昭次

一昨年春、故郷（新潟）で同窓会を兼ねた古希の神事及び直頼を済ませた。71才を過ぎた現在身体には多少故障があるが、いたって元気で毎日久喜の工業団地の中央にある昭和沼に通い、ヘラ鮒釣りを楽しんでいる。

30才頃より釣りの魅力に取り付かれ休日前日より県内はもとより千葉、茨城、栃木、福島、神奈川県池・沼・ダムに出掛け終日釣糸を垂らし水面の浮子とにらめっこ（家内は毎週土曜後家）。昭和40年に東京渋谷より上尾市に移り住む、高度成長期、仕事は多忙を極めた。そこでストレス解消を口実に釣りに拍車がかかった。リタイヤ後のこと、その他のいろいろな事を考え出来れば昭和沼近くで安住の地を求め、この沼での釣りを堪能したいと思っていた。その頃白岡ニュータウンの売り出しを知り、早速家族会議、すったもんだの末、家族の同意を取り付け上尾より移り住み早くも15年が過ぎた。63才でリタイヤ、家内の理解もあり（?）、毎日が昭和沼通いの明け暮れ。この沼の魅力は何と云っても四季の自然。春、梅に始まり桜、新緑。夏は木陰の涼感。秋、紅葉。そして他では見られない大きなヘラ鮒が釣れること。35cmから40cm位が普通で、時には45cm級も。先日も知人が57cmの巨大へらを釣り上げ周りの釣り人をあっと驚かせた。周りの釣り人も皆さん毎日のこと、顔なじみになり、釣り談義、世間話にと花が咲き楽しい釣りが出るのも又この沼の魅力。

六回目の当り年を迎えて、健康には充分気を使い、この恵まれた釣り場で釣り糸を垂れ、一瞬の当りを取り、糸鳴り、満月のような竿を通して全身に伝わるぞくぞくする手応えを求めて、次の当り年頃まで通い続けたいと思っている。

『昭和沼の詳細』……（一部です）

一般の釣り場では入魚料が必要ですが、昭和沼は県営です。釣り場も駐車場も無料です。沼の一部が有料釣堀になって居り、一般990円、65才以上は無料。又バリアフリーも完備、車椅子の人でも釣りが可能です。

【当り年を迎えて思うこと】

悠友会 高塚 修一郎

あけましておめでとうございます。

毎年我が家では、息子たちの家族が集まり、一家団欒で正月を迎え、地元の天満宮に初詣するのが恒例である。こちらに来て早くも十五年目になるが、この間住宅も増え小学校もできて、登下校時には、子供たちの元気な声で賑やかである。庭木や生垣も成長して素晴らしい街並みになり、街路樹の景観もよい。これらは、地域住民が、「花と緑のニュータウン」を心がけてきた成果だと思う。自分たちが選んだこの街を、よりよい環境の下に発展させて、次世代に継がせたいと思う。

最近ニュータウンでも高齢者の散策、ウォーキング、家庭菜園など楽しむ人が多い。高齢者といっても現役同様元気であるが、少子高齢化の様相を目の当たりにすると、介護や年金など給付と負担の問題等について考えさせられる。世代を問わずより多くの福祉やサービスを行政に求めるのは無理な時代になってきたと思う。

さて、今年は72歳になる。次の詩を自分自身に言い聞かせ、常に青春でありたいと思っている。

「青春とは人生のある期間をいうのではなく、心の様相を言う。年を重ねただけでは老いない、理想を失うときに初めて老いがくる。」（サムエル・ウルマン 青春より）

病は「気」からともいわれる。若さを保つには「一に体力・二に気力」である。一年の計を「スイミング」に決めたが、三日坊主にならないよう心がけたい。とにかく「健康第一」これに勝るものはない。次の当り年は、平成27年で84歳になる。

「梅は寒風に耐えて芳香を放つ」という。

願わくはそうありたい。

（写真右端が筆者）



“我が故郷”

加藤 満

北海道の形（輪郭）は、よくカスベ（エイ）という魚に例えられる。その例えでいくと、頭の部分は道東、尾の部分は道南になるのでしょうか。

冬の北海道は積雪の少ない道東・道南の一部を除いて、深い雪に埋もれます。道北の小さな町に生まれ育ち、小学校から高校までこの地で過ごした私は、冬の半年間寒さと戦い続ける人たちの姿を見て、子供ながらその方法を学んできました。

今の時期はマイナス30度以下になることはザラでしたし、吹雪で視界がなくなり、小・中学校が休みになったり“時間遅れ授業”になることもありました。学校では真っ赤に燃えたストーブがその周りに集まる先生と生徒、生徒と先生の間を強くしていたし、子供たちが成長して離れ離れになっても、ストーブの温もりとともに故郷や友を思い出したりしたものです。

北海道は、自然の厳しさと美しさを同時に体験できました。そのような中での道民の生活は第一次産業が大半でした。米麦豆などを中心の農業、漁業、畜産でしたし、また、今は閉山してしまいましたが炭鉱などであり、それらの労働の内容は“開拓”そのものと言えるものでした。開拓は明治政府から始められましたが、その様子の一部は本庄睦男著の「石狩川」などにも生々しく描かれています。（最も、当時の蝦夷地開拓の歴史は「開拓」をした側からの視点でのものしかありませんが）

北海道開拓は決して無人の地を開拓した訳ではありません。幕末から明治の初めにかけての探検家・松浦武四郎氏は『蝦夷日誌』で自然と共生し、自然を崇拜しながら生活していたアイヌ民族の生活を克明に描いています。

ともあれ、そんな歴史のある北海道には、まだ美しい自然が残っています。人が故郷を思い起こす時、それは、自分を育ててくれた自然であり、そこに住む人たちであり、生活の言葉ではないでしょうか。現在、私は高齢者の母を含め兄弟たちは道都札幌に住んでいますが、ビルが立ち並び200万人近くの人口が集中する大都会には「ふるさと」などはなく、「ふるさとであった地」が整備された川やスキー場となった山として残っています。

自らを含め、仕事のため生活の為と言いつつながら、ふるさとを捨てた（捨てざるを得なかった）人の多さを考える時、今さらながら、心の支えとしてのふるさとの大切さを感じるのです。

点描

“新しい市”

高薄克人

3か月ほど前になるが、証明書の必要があって町役場を訪ねた。平日の午前中だったのでまだ人も少なかったのだが、カウンターに近付くとこちらから声をかける前に係りの人が出てきて書式の記載要領を説明してくれた。記入して提出すると程なく、依頼したものを丁寧に的確に確認してくれた上で渡してくれて、全ての用事が済んだ。私はすっかり気分が良くなり役場仕事の印象が変わり、私達の町役場なんだなあと身近に感じた次第である。私達の住む街、ニュータウンはできてからまだ16年である。ごみの問題、街路樹の問題、街灯、落ち葉、公園、道路、安全、美観などなどたくさん問題が日々身の回りに起こっている。そんな時に自治会や、行政区長さんに相談すると問題によっては、町役場に出向いて直接担当部署に交渉してくれたり手続きをしてくれる。もちろん全ての問題がすぐに解決するわけではないのだが、何かニュータウンと町役場が直接つながっているという実感がある。

ところで現在進んでいる市町村合併は、その準備が今年から始まり間もなく「どこの市町と一緒にになる」かが決定されるようである。そして2年後には合併が実行される。先日町が行った5000人の町民アンケート結果では、60%の人が合併に賛成で、20%の反対意見を大きく上回っている。確かに一つの街では到底できないような大きな施設や、大規模な環境整備事業なども、いくつかの市町と一緒になればできる可能性が高い。全体としての行政機能も高まり能率よく仕事が進められる。

しかし現在の町役場は支所になり職員の数も減って、いまのようなきめの細かい対応をしにくくなるのではないだろうか。また住民の声は途中で何回もクッションして伝わるので中央部に届く頃には薄まってしまわないだろうか。住民と行政当局を繋いでいるパイプがどうしても細くなり、曲がりの多いものになる。

この街をよりよくするための行政のサポートを得るには住民の声を直接行政の中央部に届けるパイプが今以上に必要になる。すなわちこのニュータウンの代表を送り続けて、住民の意思を的確に伝え、市政に反映させることが、合併後の「新しい市」を迎えるための必要条件になる。

※自治会行事関係を掲載します。

【第二回目の「ゴミ “0” クリーン運動」を終えて】

衛生部理事 折本 勉

今回の「ゴミ “0” クリーン運動」は、白岡町の行政といっしょに実施した為、例年よりも遅く11月9日〔土〕に実施いたしました。この日は夜半から降り始めた雨が夜明けとともにあがりましたが、風が強く気温は低く清掃中は落ち葉が舞い散るほどの中での実施となりましたが、多勢いのご参加〔千数拾名〕をいただき実のある運動が展開されたことに対しまして、ここに感謝の意を込めありがとうございました。

ただ寒い状況下での作業でしたので、中にはお風邪を引かれた人が出たのではないかと心配いたしました。その様なお話を耳にしていなかったので「よかったなあ」と思っています。ほんとうにきれいな街になりました。



【ひとりでは何もできないが、こうして多勢いの方でやれば素晴らしい事が出来るんだ、ということ強くつよく感じただいです。】

これで衛生部としての大きな年中(平成14年度)行事としては終わりですが、今年は羊年、大地をしっかり見つめて青草が生えていれば腹いっぱい食べ、紙が落ちていればそれも食べ、おなかを壊さないようきれいな街に皆で作って行きましょう。

『ふれあい音楽会開催して』

企画部理事 入江 満

“新年おめでとうございます”皆様には良い年をお迎えのことと存じます。

さて、昨秋は芸術の秋にふさわしく、我がニュータウンでも恒例の「ふれあい音楽会」を11月9日(土)に白岡東小学校体育館を借用して、自治会主催、武蔵野銀行協賛により実施しました。

当日は、晴天ではあったものの、かなり強く冷たい北風の中、しかも午前の「ゴミゼロクリーン」運動に引き続いての午後1時からの開催とあって、参加者がどの程度あるか、少々不安でありましたが予想を超えて350人程度の入場者があり、盛大に開会することができました。

NHK交響楽団のメンバーである梯 孝則(ヴィオラ)、鈴木弘一(ヴァイオリン)、両氏による弦楽二重奏、引き続き茂木新緑(チェロ)氏を加えての三重奏と、モーツァルト、ベートヴェンの作品の美しい演奏に魅了され、続いて篠津中学校吹奏楽部で、お馴染み「ハリーポッター」の曲他を楽しみ、皆さんも十分に堪能されたことと思います。演奏は順調に進み、午後3時過ぎ無事終了しました。



この音楽会に至るまでには、担当の企画部班長さんの各種準備の実施、多くの自治会の役員、班長さん方の献身的なご支援がありました。特に、応援の総務部、文化部の理事さん、班長さん方の会場設営、終了後の復旧、清掃などの積極的な作業を目の当たりにして、何かのときは自治会は一体になって働く、「ここは私達の街だ」ということを強く感じました。

この街が、明るく、住み易い、文字通り「ふれあい」の街にますます発展して行くことを祈って止みません。



H14年青空市をふりかえって”

総務部理事 辻野・飛沢

1. 主催者側総括



天気予報が刻々変化したので実行規模、なかんずく場所の設定や餅数量の決定にかなり頭を悩まされました。しかしながら、結果的には大きな天候の崩れもなく、餅数量を当初の2/3に減じた以外は予定通り実行出来ました。結果的に餅販売数量が不足しましたが、天気予報の変化もありご容赦頂きたいと思います。

実行体制については一般班長の参加率が約60%とやや人手不足の感がありましたが、役員及び総務部リーダーの指揮のもと、参加戴いた班長の懸命なご努力により立派に遂行できたものと感じております。皆さまのご協力に対しあらためて御礼申し上げます。

3丁目サウスプラザ会場が、雨を気にしながらの開催であった一方、2丁目センタープラザでは予定通り、趣味の作品展示会と展示販売会を開催できました。出展者数、出品数は昨年より幾分増加しており、青空市のイベントとして定着してきたと言えます。製作者を交えた品評会がこここ

で見られるなど、展示会ならではの雰囲気も楽しんで頂けたと思います。しかしながら、プラザ内の廊下、壁、フロアの全てを展示スペースに必要とする状態であり、展示内容の整理が必要とも言えます。出展者各位、来訪者の皆様そして裏方でご協力下さった班長さん、皆様有り難うございました。尚、油絵については出展者とも協議のうえ、本年1月末まで展示しております。

2. アンケート結果について

今回、役員及び総務部班長から以下のような意見を頂戴しました。

全般的には肯定的な評価を戴いたと思われませんが、次のような問題点のご指摘もあり、次回への参考とさせて頂きたいと思います。

- ①班長の参加率を考えるとイベント数はこれが限界で1つ位減少させるべきではないか。
- ②りんご販売については品質と価格が必ずしも一般市販品に対し優れたものとは云い難い。産地と直接折衝できない状況でもあり、他ルートも含め見直すべき。
- ③フリーマーケットについては、もっと数が欲しい、また子供向け出店が欲しい。
- ④うどんはサービスのみでなく、販売をしてはどうか。(3名の方から指摘あり)
例えばサービス用に120食、販売用にも同数程度を用意する等。

3. まとめ

天候にはあまり恵まれませんでしたでしたが、各位のご努力により立派なイベントをスムーズに開催できたものと振り返ることが出来ます。ありがとうございました。

【青空市に参加して】

広報部班長 佐藤 肇

曇天下のもと、予定通り12月8日(日)にセンタープラザとサウスプラザにて、青空市が催されました。前日の7日(土)には、さくら公園のテントの組み立て部品が不足して合わなくて往生したり、餅つきの練習では、お餅が杵からタツプリと落ちてしまったりと、いろいろなことがありました。でも、そう言うときに岡田会長のウィットのある一言で、寒空の中での下準備でしたが、皆が和んで作業を進めることができました。改めて、岡田会長のお人柄を感じました。本当にご苦労様です。

当日には、会員の皆様が御協力くださいました展示会場も拝見しました。展示物も、趣味の作品とは言えないような本格的な物が数多くありました。

青空市の楽しい様子は2チャンネルで御覧の方もいらっしゃるでしょう。つきたてのあんこ餅もおいしかったですよ。青空市が盛況のうちに無事終わりましたこと、会員の皆様に感謝致します。ありがとうございました。



☆☆☆☆ 2003年の青空市を目標に頑張りましょう ☆☆☆☆

『活気に溢れた歳末警戒を振り返って』

(みずから身を守る時代に対処を)

自治会副会長 (防犯担当) 飯塚 牧三

1. 充実した歳末警戒

皆さんの家庭に届きましたか。「戸締りしっかり・火の用心。ニュータウン自治会です」と言った元気の良い掛け声をかけながら、拡声器に合図灯、そして拍子木の三点セットを持った仲間が5班に分かれ、12月27日・28日・29日の3日間、夜のニュータウン内を所狭しと連呼して歩いた「歳末警戒」の仲間のことです。

役員、班長さんを始め自主参加のボランティアの方々が自治会事務所に集合、岡田会長から「歳末警戒」の趣旨について、また防災・防犯・交通担当として路上強盗やひったくり等の「街頭犯罪」と住宅等への「進入盗」の現状報告、巡回区域、班編成等の説明をした後、一斉に住宅街に繰り出て行きました。年末の仕事や大掃除で疲れている時間帯にも拘らず、延べ119名の方々の協力を得て無事、終了することができました。



なかでもボランティアで参加して頂いた多くの皆さん有り難うございました。このような仲間が街を守る原動力になっていることを思うと目頭が熱くなりました。参加人員は例年と比べ決して多くはありませんでしたが、この行事を続けて行くことが住民の方々の防犯意識を高め、犯罪者を絶対に街に入れないといった状態を築きあげて行くものと考えております。参加された方のなかには、明日も参加します。もっとニュータウン内を知りたい。声を出して歩いたら気分がすっきりした等の感想が寄せられました。歳末警戒を通して「自らの街を自らの手で守るんだ」といった意気込みが伝わってきたように感じました。また、このような歳末警戒は住民と警察署が一体となった行動が不可欠なことから、久喜警察署に文書で協力依頼をしているにも拘らず、警察官が一度も見えなかったことに対し指摘したところ、交通事故や盗難事件があり顔を出すことができなかつたとのことのお詫びがありました。

2. 窃盗・強盗事件の発生状況

昨年、県内で起きた窃盗や強盗事件は11月末までに計134,812件発生、10年間で1.5倍に増加しているとのこと。なかでも平成13年同期と比較して最も増えたのは空き巣で2,314件増の13,074件、金庫破りは124件増の704件発生しています。この事件に対し警察官の数は少なく平成13年4月1日現在、全国の警察官が抱える人口(人口負担率)は1人平均545人であるが、埼玉県は738人で全国最多です。この数字は神奈川の620人、千葉の589人と比べても格段に多い状況にあります。埼玉県警は来年度、380人増員するものの、人口負担率は依然全国一のままです。

また、平成13年の犯罪検挙率をみても14.63%で全国ワースト4。全国平均は19.82%、本県の警察官1人当たりの検挙件数は267件。こちらは全国16位とのこと。皆さんに防犯意識、防犯知識を高めて頂く本旨はここにあるのです。

3. 自治会としての取り組み

今後も引き続き、駅前交番の無人化の解消を始め犯罪を未然に防ぐための警備に重点を置いたパトロールの強化を要請して行きます。また、交通事故と事件を交番の署員が対応しているが、別の組織で処理にあたるような提案もして行きたいと考えております。

残念なことに昨年の12月に発生した強盗事件も未解決のままです。自治会員の皆さんにも「似顔絵」を公開しておりますがお気づきの点がありましたら、110番通報するか久喜警察署(24)0110番に電話をしてください。一刻も早く犯人を逮捕し安心した生活が送れるよう皆さん方のご理解、ご協力をお願いします。

“歳末警戒を振り返って”

防災防犯交通班長 角田京子



師走に入ると、歳末警戒参加者募集の回覧がまわり、今年も、もうそんな時期に来ているのかと、月日の経つはやさを感じずにはいられませんでした。例年ならば、警戒に廻っている方々の声が聞こえてくると、暖房のきいた部屋で“ご苦労様”と心の中でつぶやいていただけでしたが、今年は自らが参加させていただくという事で、直前まで不安と期待でいっぱいでした。三日という短い期間でしたが、歳末警戒ではニュータウンの方々に防犯・防災をより意識していただけた様でした。巡回の途中に励ましの声をかけて下さる方もおり、大変心の支えになりました。

皆が一つになり、無事に歳末警戒を成し遂げられた事は、これからのニュータウンの日々の生活に、きっと役立てられることでしょう。皆様ほんとうにご苦労様でした。また、私自身としても実際に参加しなければ得ることの出来なかった、とても貴重な体験をさせていただき、本当に良かったと思います。回を重ねるごとに、歳末警戒も、きっとより良い方向へと向かっていくことでしょう。

“歳末警戒パトロールに参加して”

文化部经理 島田晴夫



昨年末の12月27日から3日間、白岡ニュータウン自治会の歳末警戒パトロールに初めて参加させて頂きました。ここ何年かの社会問題としての認識はありましたが、車の盗難やピッキング・強盗などが私達の生活の身近でも相次いで発生し、改めて地域社会の安全は自分達で守ろうという危機感が強まりました。パトロールは一見地味な活動ですが単なるセレモニーではなく、ニュータウンで暮らす人々が防犯対策において強固なコミュニケーションを主張する有意義な行事だと思います。

当夜は集会所において振舞われた甘酒で身体を暖めた後、岡田会長による「自分達の安全と安心は自分自身で守ろう！」との決意表明の後、5班に分かれた参加メンバーは拍子木やハンドマイクなどを手にそれぞれのエリアで元気を競い合うようにパトロールを実施しました。

私達のグループも他のグループに負けないよう、いつになく掛け声に気合が入り、「戸締りしっかり火の用心」の連呼とメンバーの力強い唱和でニュータウンの人々の結束と絆に支えられた良い仲間意識が醸成されたのではないのでしょうか。パトロール中の門灯の照明協力の呼びかけにインターホンから「ご苦労様です」の応答にはホッと一息し、やりがいを感じます。

また整然と並ぶ門灯のそれぞれに点灯された夜明りの街並みは昼間とはまた違った調和のとれた佇まいを見ることができました。

パトロール最終日、互いの参加者に「良いお年を!」と挨拶を交わした皆んなの顔には達成感で清々しく、そのためか晴れ晴れしい気分で新年を迎えられました。

私はこのような連帯感で結ばれる自治会活動には強い誇りを持てます。そして年の瀬には欠かせない恒例の伝統行事として代々受け継がれていくことを願っています。

“歳末警戒に参加して”

3-6-5石丸金彌

ニュータウンに住んで10年過ぎ、初めて自治会の歳末警戒に参加した。埼玉県は住民数に比し警官数が最も少ない。

犯罪予防は住民自身によることが期待される。最近の犯罪は外国人も加わり、凶暴・国際・巧妙・スピード・ハイテク化し、狙った獲物はカズくで必ず獲るという極めて治安が悪い世情になってきている。ニュータウンも隙を与えると例外ではない。前警視総監の野田氏は犯罪を誘わぬ環境づくりを訴えている。そこで狙われる隙を作らないことが肝要。今回3日間同じ区域を巡回しての感じた事を挙げると、



1. 夜の町を明るくする事は最大の防犯になると思う。特に勝手口外灯の点灯は、真っ暗な所が真昼の様に明るく不審者も近寄れない。自分自身を含め不点灯の家も多い。勝手口外灯の点灯が定着する事を望みたい。
2. 門灯の不点灯は、最初の日には歯が抜けたようにあったが、点灯依頼ビラで依頼した効果が出て3日目には全部点灯されており、防犯に隙が無い街と感じ、終わる頃軽くかいた汗が爽快になった。
3. 植木を低く刈り込み、外からの見通しをよくした家と、自動感知灯設置の家が増加しており、防犯意の高まりが感じられた。

以上、ニュータウン内の暗い場所を無くし、明るくするように、自分自身の問題と捉え、継続努力すれば、犯罪者が来ても隠れる場所を与えず、早々に退散するような防犯環境がしっかりした町になってゆくのも決して夢ではない。

通勤途中でのタバコの吸い殻のポイ捨てはやめましょう！

《少年スポーツ》

『白岡ファイターズ平成14年度活動状況』

白岡ファイターズ 会長 三石 尚

★平成14年度

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| * 3 / 31 (日) | 埼玉県総合開会式 (大宮県営球場) |
| * 4 / 13 (土) ~ 21 (日) | 白岡町春季大会 (第3位) |
| * 4 / 29 (月) ~ 7 / 21 (日) | ロータリークラブ杯リーグ戦 (第3位) |
| * 6 / 2 (日) ~ 15 (土) | 南埼玉地区交流大会 |
| * 7 / 7 (日) ~ 21 (日) | 白岡町親善大会 (5年生チーム準優勝) |
| * 8 / 10 (土) | 東部少年野球大会 (三郷市へ遠征) |
| * 8 / 24 (土) ~ 25 (日) | 夏合宿 (盤代青年の家) |
| * 9 / 15 (日) | ちびっ子野球大会 (4年生以下参加) |
| * 10 / 6 (日) ~ 12 (土) | 町民体育祭 |
| * 10 / 14 (月) | 白岡町親子レクリエーション大会 |
| * 10 / 20 (日) ~ 26 (土) | 日本ハム杯新人戦 |
| * 11 / 4 (日) ~ 17 (日) | 東部ブロック選抜交流ひまわり杯大会
(久喜警察署協賛) |
| * 11 / 24 (日) ~ 12 / 1 (日) | 白岡シニア招待試合 |
| * 12 / 7 (土) | 6年生お別れ試合 |
| * 12 / 8 (日) | 白岡町駅伝まつり |



☆平成15年度

- | | |
|--------------|--------------------------|
| * 1 / 12 (日) | 練習始め、安全祈願、おしるこ大会 |
| * 1 / 19 (日) | 白岡町新春マラソン大会 |
| ● 1 / 26 (日) | 親子対抗紅白戦 (野球・ソフトボール) ……予定 |
| ● 2 / 23 (日) | 6年生お別れ会 (卒団式)・総会 ……予定 |

※上記以外に町内外の他チームとの練習試合を低学年を含め約20試合程度行っています。

昨年も白岡東小学校をホームグラウンドとして、元気一杯活動して参りました。私たち白岡ファイターズは、試合の勝ち負けや失敗にこだわらず、一人一人の長所を伸ばす指導に心掛けております。

現在団員は39名と、ここ10年間では最も多くの子供達が参加しており、明るく伸び伸びと野球に打ち込んでいます。学校週5日制がスタートし、余暇の過ごし方が大変重要になっております。白岡ファイターズでは一人でも多くの子供達が参加してくれる事を期待しお待ちしております。週末のお天気のよい日には、白岡東小学校にお出掛け下さい。

♪♪♪♪♪これからも暖かいご声援をよろしく申し上げます♪♪♪♪♪

【野球大好き、野球がもっとうまくなりたい】

6年生 森 永 崇 寛



僕が野球を始めたのは、小さいころ家の前で姉や近所のみんなとカラーボールで遊んだのがきっかけで野球の楽しさを知りました。小学二、三年のころは高岩公園で友達とよく野球をやっていました。小学四年生なる春休みに、姉の高校が甲子園に出場したので応援に行き開会式と試合を見て感動しました。ぼくも、甲子園球場で野球をやりたいと思い、すぐに白岡ファイターズに入団しました。

きつい練習と、試合に勝ったうれしさや、負けたくやしさを忘れずに今日まで努力しました。練習してもなかなかうまくなれないまま、ぼく達が最上級生になり、みんなから主将にすいせんされひき受けました。

新人戦の時は前よりも勝ちたいという気持ちが強くでましたが、二回戦で負けました。春になっても甲子園で見たような試合が出来ず夏も過ぎ、最後のシニアの大会でも優勝出来ず、最高は町内三位でした。

白岡ファイターズに入ってみると楽しく試合をしたことがいい思い出になりました。卒団してからも、野球を続けて甲子園大会に出場して大リーグで活やくしているイチロー選手みたいに、野球の好きな子ども達に夢をあたる選手になり目標にされる選手になります。そのために体を大切に、技術を向上させたいです。監督、コーチ、チームメートのみんなに感謝しています。



【野球】

6年生 米沢卓巳

僕にとっての野球とは、ただのスポーツというだけではなくて初めて夢を持ったという点では特別なスポーツです。僕が野球を始めたのは4年生の終わりでした。その時すでに野球をやっていた同学年のM君を見た時はとてもびっくりしました。体はでかいし、動きも速いし、かたは強い、中学生かと思うような大型選手です。今でも投手をやっている、とてもうまく、他のチームの監督がほめるぐらいなのです。聞いてみると3才からずっと野球をやっているのだそうです。5年生から、もうずっと試合に出ているM君を見て第一の目標をレギュラーメンバーになる事に決めました。その次の日一人で練習をして5年生の中頃から試合に出れる様になりました。その時はとてもうれしくて、うれしくて、どうしようもない位でした。今、考えてみると目標があったからこそ一人でちゃんと練習がんばれたのだと思います。今はプロ選手になる事は考えていませんが、もし中学、高校と野球を続けていって、機会があればプロ野球にもチャレンジしてもよいと思っています。僕が野球を始めて一番感じたことは、最後まであきらめずに目標に向かって一生懸命やる事が大事だという事です。これからも目標に向かって一生懸命がんばりたいです。

いるM君を見て第一の目標をレギュラーメンバーになる事に決めました。その次の日一人で練習をして5年生の中頃から試合に出れる様になりました。その時はとてもうれしくて、うれしくて、どうしようもない位でした。今、考えてみると目標があったからこそ一人でちゃんと練習がんばれたのだと思います。今はプロ選手になる事は考えていませんが、もし中学、高校と野球を続けていって、機会があればプロ野球にもチャレンジしてもよいと思っています。僕が野球を始めて一番感じたことは、最後まであきらめずに目標に向かって一生懸命やる事が大事だという事です。これから目標に向かって一生懸命がんばりたいです。



《防犯コーナー》

『家宅進入を防ぐ手立てを考えよう！』

防犯担当副会長 飯塚牧三

ピッキングという手口からカム送りやサムターン回しと呼ばれる、新たな解錠手口の空き巣被害が急増しており、マンションや団地をターゲットとしているとのことです。

従来のピッキングは、耳かきのような形の金属棒を鍵穴に入れ、前後に動かして解錠する手口を指すもので、容疑者の多くが中国人だったが、錠の改良や交換で対抗できたため、ここ数年は被害件数も半減していた。ところが、昨年8月から、手動ドリルでドアに穴を開け、先が90度折れ曲がる金属棒を使って解錠するサムターン回の被害が、猛烈な勢いで発生しているとのことです。昨年の11月末までの4カ月間で、東京で約130件、神奈川で約115件、千葉で約50件、埼玉でも多数確認されていることから注意を呼びかけて欲しいとの情報を得ましたのでお知らせします。

進入を防ぐ対策としては、錠を複数取り付けるのが、様々な手口に対して最も効果的だといわれており、理由は解錠時間を少しでも短縮したい進入犯が敬遠することにあるとのことです。警察署でも「日本も外国のように、ドアにつける錠の種類を自分で選ぶような意識が必要な時代になった」のではないかと言っています。しかし、まだ多くの方が自分は被害にあわない。被害者にならないといった意識が強すぎるため、無警戒になってしまう傾向にあるようです。特に、マンションに住んでいる人はオートロックだからマンション全体が外部から守られているという錯覚を生み、まるで建物全体が自分の家であるかのように感じてしまうことに問題があるようです。その気さえあればオートロックはフリーパスです。例えば、住人が入った後を追って、自動ドアが開いているうちに入る。適当に部屋番号を押して「宅配便を装う」。良く利用する出前などの業者に教えてしまうケースもあると聞きます。近所付き合いが希薄なマンションだと、ほかの住人の顔など知らない人が多いと思います。毎年、実施している防災訓練にケガ人として参加して頂くよう防災担当の班長さんをお願いしていますが、苦勞されていることから推察されます。大都会だけではなく地方都市の静かな住宅街でもある日突然、危険に遭遇する時代になってしまったのです。こうした犯罪から身を守り、財産を守るといった「防犯対策」を私たち自ら考え行動する必要があるようです。

(注)

サムターンはドアの内側にある回転式の錠で、親指(サム)と人さし指でつまんで回し(ターン)ながら掛けたり外したりする最も一般的な錠のこと。道具等を使ってこの部分を回して開けることから名がついた。ドアののぞき穴のレンズを外して金属棒を入れたり、新聞受けの金具を外して腕を入れて直接手でサムターンを回したりする手口も確認されているとのことです。

《子供作品コーナー》

【スキーりょこう】

2年生 越替瑞穂

わたしは、かぞくでスキーりょこうにいきました。12月28日から30日までりょこうについて1日目はじいがたけで、2日目は青きこについて、3日目はかしまやりにいきました。青きこですべているとき青きこがきれいでした。いちばん自分でいいなと思ったところは、じいがたけです。青きこの一ばん上にいったら、がけみたいでこわかったです。ほかの人はこわくてリフトで下におりている人もいました。だからわたしは「リフトにのって下までおりようよ。こわいよ。」と言ったときにはもうパパは下におりていました。しかたなく下におりました。でもとちゅうでスキーいたをとってあるいておりました。でもパパが「あるいておりたら日がくれちゃうよ」って言ったからスキーいたをまた足につけてすべりました。なんかいもころんで足に雪がはいってつめたかったです。でもさい後まですべりました。レストランでスパゲティーをたべました。おいしかったです。じいがたけのよかったところは、人がすくなくてすべりやすくてよかったです。りょかんにかえっておんせんにはいりました。ろてんぶろがきもちよかったです。さいしょ、はいるときは、すこしあつかったです。おしょくじもおいしかったです。



【サッカー観戦】

5年生 原 尻 明

冬は、全国高校サッカー選手権大会があります。ぼくはサッカーが好きなので、楽しみにしていました。

ぼくは2試合見に行きました。ぼくのお兄ちゃんの高校は一試合目は2対0で勝ちました。2回戦は夏の大会で優勝した帝京高校です。車がじゅうたいして、サッカー場に着くのがおくれました。早く着いて見たいと思いました。ついた時は先制点をきめていたけれど、すぐ逆点されました。おわりごろはいいせめをしていたのでおしかったです。一点差で負けてしまいました。残念だったけどいい試合でした。帰ってきたお兄ちゃんはいしょんぼりしていました。けれど僕の応援していたチームはベスト4に入ったのでうれしかったです。



【冬休みの思い出…スキー旅行…】

6年生 越替瑠璃子

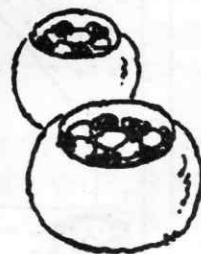
12月28日から12月30日まで、長野県大町市にスキー旅行に行きました。1日目は爺ヶ岳スキー場に行きました。すべている時、周りは、真っ白い山々がならんでいて、とてもきれいでした。2日目は青木湖スキー場に行きました。目の前は、青木湖があって、すべている時に、青木湖に飛びこんでしまうんではと思うほど、すごかったです。3日目は鹿島槍スキー場に行きました。コースはいろいろあり、周りは真っ白い山々がならんでいました。少し青木湖も見えていました。その後、ながめの良い温泉にはいりました。星もきれいに見えていました。冬休みの良い思い出になりました。



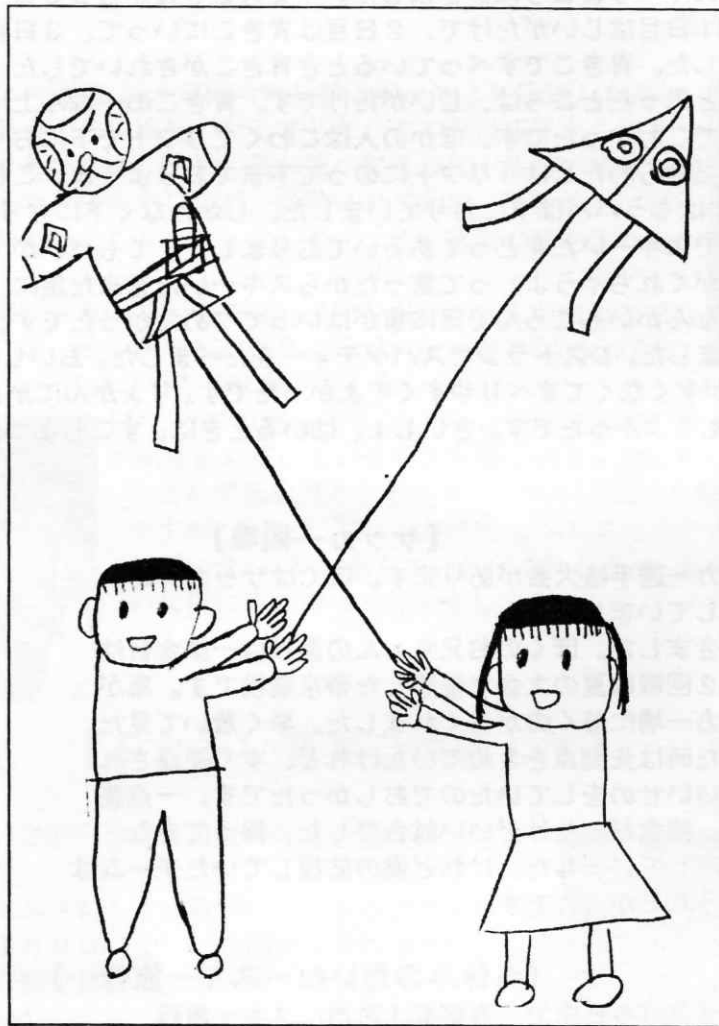
【碁を打つ楽しみ】

6年生 原 尻 薫

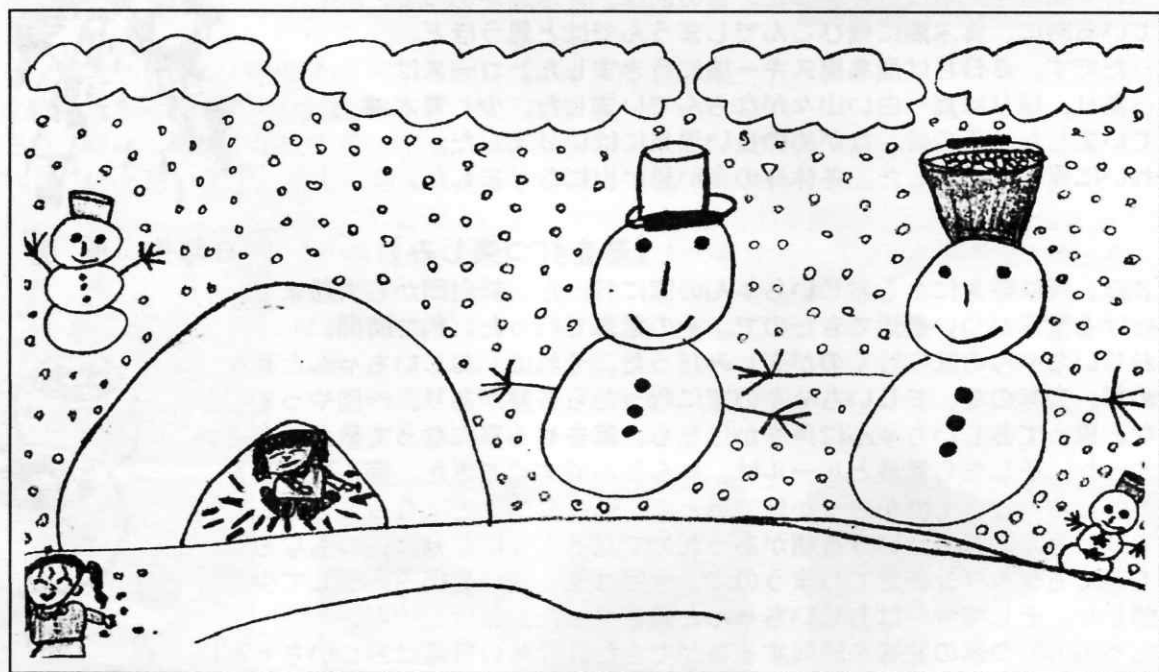
1月3日、僕は鎌倉にあるおじいちゃんの家に行った。新白岡から大船まで一本で行ける電車がつい最近できたので、その電車で行った。約2時間。ぼくはおじいちゃんの家に行くのが楽しみだった。それは、おじいちゃんと碁をやるためだ。去年の冬、おじいちゃんの家に行ったら碁盤があり、一回やってみたいなと思っておじいちゃんに声をかけたら、碁をやる事になって教えてもらいながらやった。そしたら意外とルールは、かんたんですぐできた。囲んで碁石を取るとうれしかった。それがきっかけで弟とよく碁を打つことになった。そしてアニメで「ヒカルの碁」という番組があったので見るようになり、いつもならハマっていてもダンダンあきてしまうのに、今回は長く続いている。そして少し碁の勉強した。そして今年はおじいちゃんと碁をやった。負けたけど、おじいちゃんの打つ碁の意味を理解する事ができた。今年の目標はおじいちゃんに勝つ事だ。



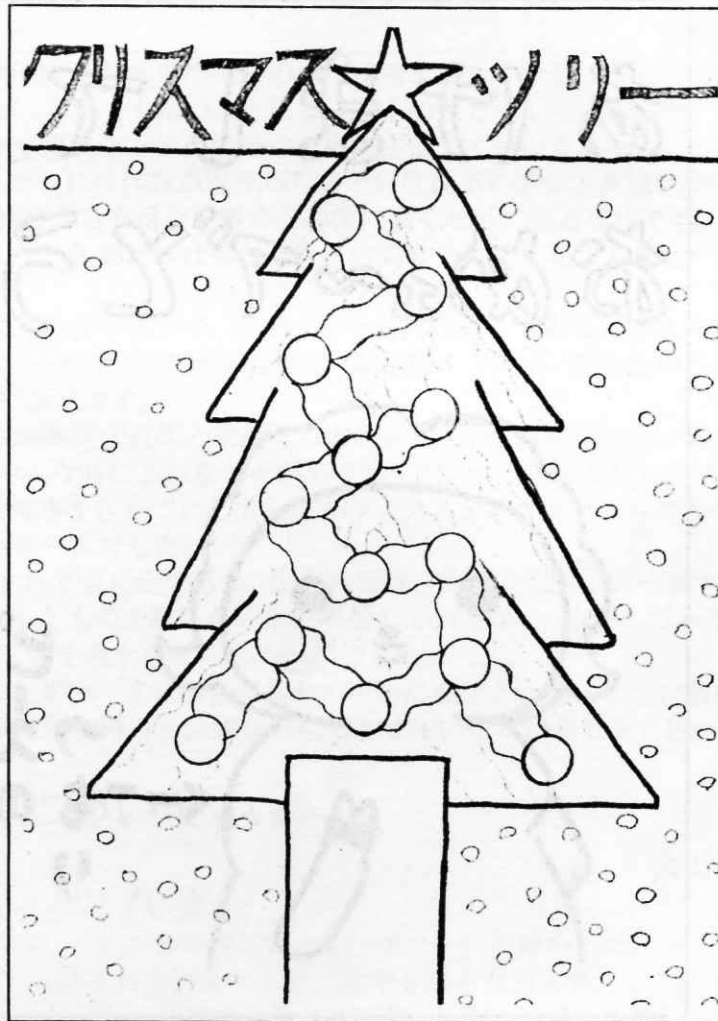
【たこあげ】3年生 横山 優香



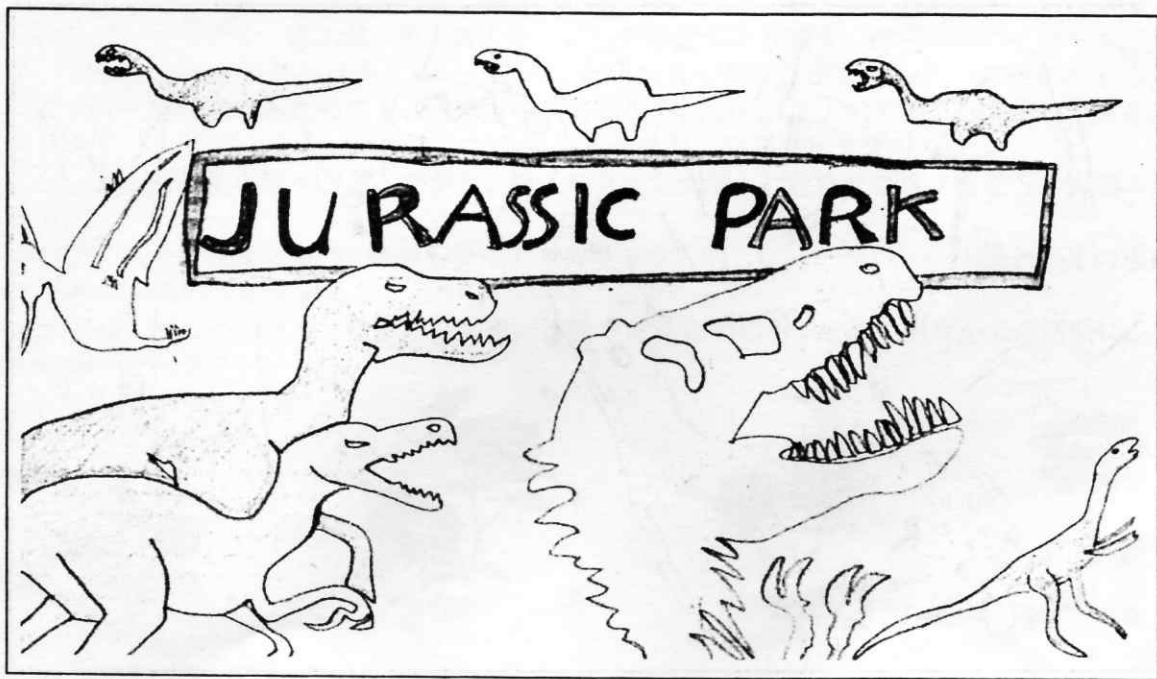
【楽しい雪】1年生 川嶋 里央菜



【クリスマスツリー】 6年生 横山周平

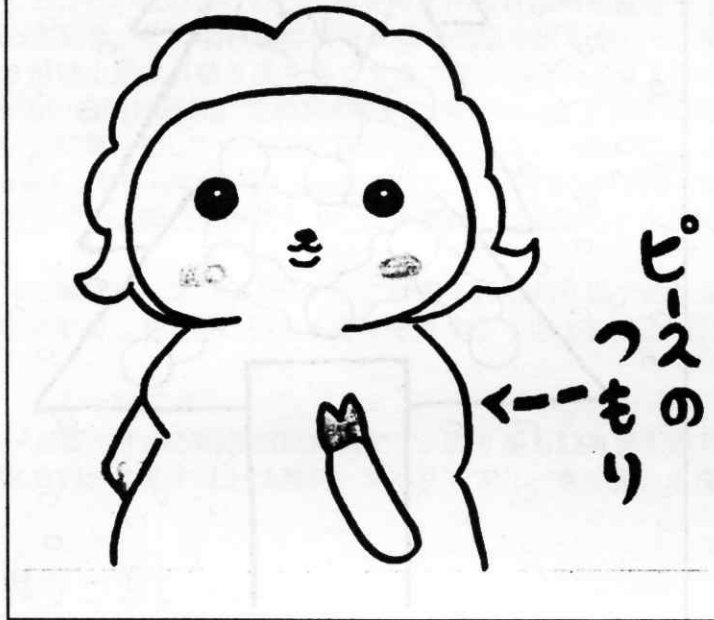


【JURASSIC PARK】 2年生 川嶋一杜

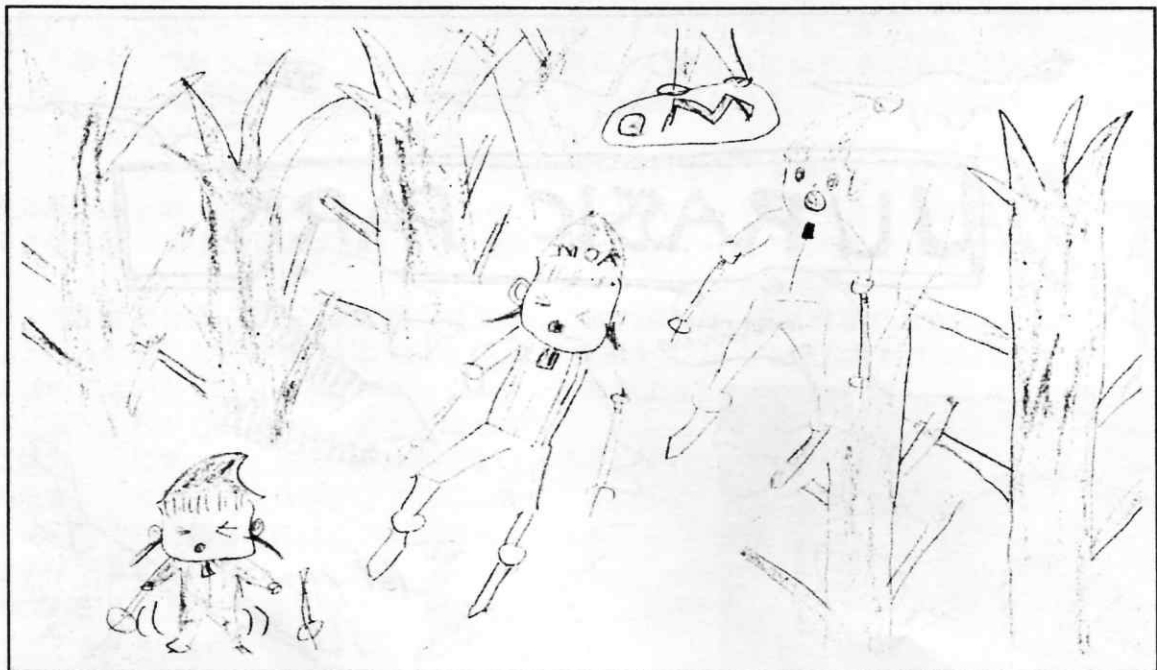


【あけましてめでとう】中2 佐藤 夢子

あけまして
おめでとう



【スキーりょこう】2年生 越替 瑞穂



“この町・この街”

佐藤 肇

早いもので私達家族が、“この町”に来て14年が経ちました。来た時に生まれたばかりの次女が、今年中学3年生になります。最初は我が家から新白岡駅が見える程何も無く、又商業施設や医療機関も少なく閑散とした町並みでした。それが、今ではこの様に立派な町に発展し感慨深い思いがします。まだまだ細かい点では改善していく所もありますが、これから“ソフト”面の充実を図り、この町で生まれ育った子供たちが誇れる故郷（ふるさと）としての町造りをしていきたいと思ひます。それには、この町のスローガンを具体的に実行することで精神的な町の発展ができると思ひます。スローガンは色々あっていいのですが、ここで、改めて思うことがあります。それはやはり「挨拶の町・白岡ニュータウン」です。人間関係及び、社会との係わりは挨拶ではじまり挨拶で終わると思ひます。最近の子供たちはきちんと挨拶のできる子は少ないと思ひます。そして、それは大人の責任、又社会全体の責任でもあると思ひます。大人のほうから積極的に挨拶することでコミュニケーションができ、郷土愛が生まれくると思ひます。殺伐とした世の中ですが「挨拶」を通じて明るい健康的な町にしていきたいと思ひます。

《趣味のコーナー》☆☆☆☆花によせて☆☆☆☆

生花「花みずき会」森 理 晶

ニュータウンには花みずきの木がたくさんあります。私達の会はこれに因んで「花みずき会」と名付けました。お稽古は月二回、第一と第三金曜日の12時15分から2時45分まで二丁目集会所センタープラザで行っています。活動は始めて早いもので三年目を迎え、会のメンバーは少数ですが自治会の文化祭等に作品の発表をさせていただきました。

私の流派は古流ですが、古流はいわゆる生花と現代花があります。生花を活けるような床の間も少なくなり、また古典生花は難しいと敬遠されがちですので、普通稽古は稽古をしていきます。

季節の移り変わりは早く、花も四季ごとに色を変えて個性豊かに咲いては散っていきます。夏は大輪のひまわり、ハイビスカスと、暖色の花々も今は赤芽柳や水仙など花材



もすっかり冬の佇まいをしています。心が少し沈んでいる時、花を活けていると元気を取り戻せる気がするのです。少々我田引水かもしれませんが。

私の先生は既に90歳の半ばを過ぎていますが弟子が稽古を怠けると「一生懸命おやりなさい。お花を活けているとお花や木から出るイオンを吸って長生きするのよ!!!」等と叱咤激励されたものです。真偽の程は分かりませんが、確かに華道の先生達は長生きの方が多いのです。

その様な事を考えながら、基本を大切に教えたり教えられたり、また自由な発想で楽しんでお稽古をしていきたいと思ひます。



『2 月子供お楽しみ会のお知らせ』

自治会子供部会

寒くて暗い冬が過ぎると明るく希望に満ちた春がやってきます。子供部会の今年度最後のイベントであるお楽しみ会のご案内をいたします。これまで何年もかかって役員、班長さん達がやってこられた伝統的行事となっているドッジボールゲームとビンゴゲーム大会です。今年は未就学児も楽しめる「ジャンケン勝ち抜きゲーム」をとりいれました。1月初めに回覧を廻し、未までには応募状況がわかりますので班長さん達と相談して楽しい大会になるよう計画していこうと思ひています。皆様にもご協力して頂き面白いアイデアがありましたら子供部会迄ご連絡下さい。♪♪♪♪♪たくさんの方々参加をお待ちしております♪♪♪♪♪

記

日時：平成15年2月22日（土） AM8:30 - 12:00

会場：東小学校 体育館

催物：ジャンケン勝ち抜きゲーム

ドッジボール

ビンゴゲーム



【平成15年度役員候補者募集について】

日頃より自治会活動についてご理解とご協力を戴きまして、誠にありがとうございます。おかげさまで円滑な運営が可能となっており、大変感謝しております。

さて、新しい年を迎えて平成15年度の役員候補者募集の時期となりました。自薦・他薦により1月末まで募集しています。※

役員枠約20名のうち半数程度が空くと予想され、是非宜しく願います。

※連絡先：TEL&FACS 93-5133

ないし e-mail ; snt.jichikai@bf.wakwak.com

日本経済の長期低迷の影響もあってか、昨年は当地でも物騒な事件が続発しました。私達の力を結集してこの街を安心して住める緑豊かなものに行きましょう。

自治会長 岡田光旦

《編集後記》

年も改まり、新たな一年が始まりもう一ヶ月。早いものです。昨年末には久しぶりに雪が降りました。急な天候の変化で、体調を崩された方も多いのではないのでしょうか。斯く言う私もダウンしてしまいました。お正月には東京箱根間の大学駅伝を楽しみましたが、この時も雪。小雪の舞う中での若い人たちの力強い走りを見て、たくさんの元気と感動をもらいました。

今年は、これからも雪の降る機会が増えるかもしれません。ニュータウンの皆様、どうぞケガのないように、健やかな一年でありますようお祈り致します。

(佐藤)

年も押し迫った12月、仕事で「ウクライナ」に行く機会がありました。旧ソビエト連邦のこの国は人口5千万人、国土は日本の約1.5倍。旧連邦の穀倉地帯としての役割を果たしていましたが、日本にも麦などの主要穀物を輸出するまでになっています。

一方、わが国の食糧や穀物の自給率は「先進国」の中では最低ですが、EUを始めとして世界では環境問題とともに、食糧の自給率も見直されつつあります。

ところで、ウクライナの首都である「キエフ」は街の随所に旧体制の名残りもありますが、町並みは、移動の前後に滞在したパリ周辺同様、整然とした中にも美しさがありました。「なぜなのかな」と考えてみたら、街路樹はたくさんあっても、電柱などの無粋なものがないからなのかなとも思いました。2003という番号の付いた年になりました。ニュータウンを住みよい街にするために住民一人ひとりの環境等に対する意識改革も必要なのかもしれません。

(加藤)

昨年は日本経済全体が不況の長いトンネルから抜け出せず、また私たちの街では強盗事件を始めとして多くの凶悪事件が発生するなど重苦しい空気につつまれることが多かった年のように感じます。景気はまだまだ上昇軌道にはのれないでしょうが、少なくともこの街が安心して暮らせる場所となるよう、自治会の諸活動を通して貢献していきたいと考えております。

(田村)

今年も新しい年に改まりました。1月1日の読売新聞の『論点』に日野原重明さんの“「いのち」の大切さ発信して”と題して記載されていました。その内容は“新老人(75歳以上)から、これまでの大人たちが成し得なかった戦争のない世界の構築に代わって、悲惨な戦争を体験した新老人を祖父母にもつ子供達が、世界の子供達にメッセージを発信して欲しい。そこには、いのちを大切にすることや、もっともっと動物をいとおしんだり、木や花も含めてのいのちを大切にしようという言葉、電子メールで伝えてもらいたい”と記されていました。世界平和と日本の経済の再生を願うものです。私事ですが、昨年自治会だより晩秋号を発行した後、入院手術、年末に幸いにも退院出来、新年を迎えることが出来ました。新年早々皆様からのたくさんの原稿を頂き、無事に新春号の編集を終える事が出来ました。ご協力頂きました方々に感謝とお礼を申し上げます。今年も小さいメディアですが、皆様に自治会に関する情報を提供させていただきます。宜しく願い致します。

(岡本)